

# そよ風

第4号

今治市立立花中学校

## 「自分以下を求める心」

あれは小学校の時のことです。私たちのクラスにいじめがありました。私もほかの人たちと一緒にいじめては笑っていました。当時の私は、「自分以下の存在が欲しかった」のだと、今になって気付きます。

自分を磨く努力をしないで、ただ自分以下が欲しいだけでいじめるのは差別ですね。周りを見ても、努力しない人ほど他人を傷つけたり悪口を言ったりしている気がします。まるで魅力のない生き方ですね。その中に自分もいたと思うと恥ずかしくなります。

私は、中学生になっていろいろな人権問題について、たくさんのことを勉強してきました。しかし今でも、思わず、相手を傷つけたり、がっかりさせたりすることをポロっと言うてしまうことがあります。そんなとき、「頭の中で分かっているだけ、知っているだけで、実際の生活で学習したことが活かされていないのだ。」と反省し、後悔するのです。

私たちは、得意もあれば不得意もあります。すべてをかつこよくやることはできません。なのに、他人の小さな欠点を探し出して、いじめたり、自分の方がすぐれていると思違いしたりするのは恥ずかしいことですね。ねっ、先生。とっても恥ずかしいことですね。

私は、自分以下がいない人になりたいです。他人のことをとやかく言わず、自分の生活にまじめにぶつかっていく生き方をしていきたいです。

これは、小学校時代の「いじめた経験」を告白し、中学生になって人権学習を重ねている今でも、まだまだ反省することがあることを自覚し、これからの生き方を改めていこうとする決意を書いた生徒作文です。

みなさんも自分の生活を振り返ってみてください。周りの人のちょっとした失敗や失言をあざ笑う行動をとったり、ばかにした態度をとったりしたことはありませんか。そしてそのときは、「いけないことをした。」と反省したのに、また同じように人を傷つけることを繰り返してしまったことはありませんか。

何度も同じような失敗をするかもしれませんが、大事なことは、そのたびに、それまで以上に反省し、後悔し、「またやってしまった。人を傷つけてしまった。」と自分で自分の心を痛めることです。

人はみな、『弱い心』を持っています。

しかし、それを克服しようとする『強い心』を持っているのもまた人間なのです。

